

Ⅱ 結果の概要

II 結果の概要

1 まち全体の印象について

東松山市に愛着を感じている（「愛着がある」＋「どちらかといえば愛着がある」）と答えた人の割合は、全体で7割台、居住年数が長くなるほど割合が上昇する傾向がみられます。

東松山市が住みよいと感じる（「住みよい」＋「どちらかといえば住みよい」）と答えた人の割合は、全体で7割台、経年比較でも年を追うごとに割合が上昇する傾向がみられます。

東松山市に住み続けたい（「現在のところに住み続けたい」＋「東松山市内の別のところで住み続けたい」）と答えた人の割合は、全体で7割台、男性が女性より高く、20～29歳が目立って低くなっています。

また、東松山市に住みよいと感じる人は、愛着を感じている人ほど割合は高く、東松山市に住み続けたい人は、愛着を感じている人／住みよいと感じている人ほど割合が高くなっています。

東松山市の印象でよい評価（「よい」＋「どちらかといえばよい」）のものは、「自然環境／人柄・土地柄／買い物などの日常生活の利便性」が多く選ばれています。

一方、東松山市の印象で悪い評価（「わるい」＋「どちらかといえばわるい」）のものは、「活気とにぎわい／市の発展性／都市としての個性や魅力」が多く選ばれています。

2 こどもの分野について

子育て環境が整っている（「整っている」＋「どちらかといえば整っている」）と答えた人の割合は、全体で4割強、30～59歳・80歳以上や若い子どもが同居している世帯で高くなっています。

一方、子育て環境が整っていない（「整っていない」＋「どちらかといえば整っていない」）と答えた人の割合は、全体で1割台、その理由として「公園や児童館など安心して子どもが遊べる場が少ない／小児医療体制が不十分／延長保育や休日保育など働き方の多様化に対応した保育サービスが不十分」が多く選ばれています。

3 健康福祉の分野について

最初にかかる医療機関を決めていると答えた人の割合は、全体で6割台、最初にかかる医療機関を「近所の医院・診療所・クリニック」としている人が多数を占めています。

健康づくりのために心がけていることは、「食事に気をつける／十分な睡眠・休養をとり、規則正しい生活をする／たばこを吸わない」が半数以上に選ばれています。

感染症対策に「取り組んでいる」と答えた人の割合は、全体で7割台、「手洗い、手指消毒をする／咳エチケット、マスクの着用をする」の対策が多く選ばれています。

4 環境の分野について

環境に配慮した生活を心がけている（「心がけている」＋「どちらかといえば心がけている」）と答えた人の割合は、全体で8割台、女性が男性より高く、心がけていることとして「決められたとおりにごみの分別を徹底している／マイバッグを利用したり、過剰な包装を断ったりするなどごみの減量化に努めている／調理の際に食材を使い切るようにしたり、食事は残さず食べるようにしている／部屋の電気やテレビのスイッチはこまめに消している」が半数以上選ばれています。

5 交通の分野について

日常生活の中で主に利用している交通手段の割合は、「自家用車（自分で運転）」が全体で7割台と突出しています。また、「自家用車（家族や知人が運転）」は女性が男性より高くなっています。

市内循環バスを過去1年以内に利用したことがあると答えた人の割合は、全体で1割台、主な利用目的は「買い物／通院／通勤・通学」で、「通院」は女性が男性より、「通勤・通学」は男性が女性より高く、利用したことがないと答えた人の割合は、全体で8割台、利用しない理由として「ほかの交通手段を利用している／近くに停留所がない」の割合が高くなっています。

デマンドタクシーを利用したことがあると答えた人の割合は、全体で1割台、主な利用目的は「通院／買い物」となっていて、利用したことがないと答えた人の割合は、全体で8割台、利用しない理由としては「ほかの交通手段を利用している／デマンドタクシーを知らない」の割合が高くなっています。

6 防災・減災の分野について

災害時の防災情報（避難情報）の取得手段は、「緊急速報メール（緊急地震速報等、対象エリアに一斉配信されるメール）／テレビ」が半数以上、次いで「防災行政無線／インターネットの防災情報」が多く選ばれ、「インターネットの防災情報」は男性が女性より、「登録制メール（東松山いんふおメール等）」は女性が男性より割合が高くなっています。

避難行動を求められた際にとる主な対応は、全体では「市の指定緊急避難所・指定避難所に避難する／自宅が安全なため避難しない／車で安全な場所に避難する（車中避難）」の割合が高くなっています。

日頃から災害に備え行っていることは、「保存飲料水・食料品を準備している」が半数以上、次いで「非常用持ち出し袋を用意している／家族や親族との連絡方法を決めている／避難場所や経路を確認している」が多く選ばれ、「保存飲料水・食料品を準備している／非常用持ち出し袋を用意している」は女性が男性より割合が高く、「保存飲料水・食料品を準備している」は年を追うごとに上昇しています。

7 商業の活性化について

商品の購入場所については、「市内の大型店・チェーン店」と回答した人の割合が最も高く、全体で「食料品」が8割台、「衣服・服飾品／家具・家電」が6割台となっており、「衣服・服飾品／家具・家電」は、年代が上がるごとに上昇する傾向がみられます。

食料品などの日用品の買い物で不便を感じていると答えた人の割合は、全体で2割強、不便な理由として「近くにお店がない」が半数以上、次いで「バスなどの公共交通機関の停留所が遠い、運行本数が少ない／家族等の協力が無いと買い物ができない」が多く選ばれています。

8 協働によるまちづくりについて

自治会活動や地域の行事などに参加している（「よく参加している」＋「ときどき参加している」）と答えた人の割合は、全体で4割強、年代が上がるごとに上昇する傾向がみられます。

ボランティア（社会貢献）の活動経験がある（「現在活動している」＋「以前活動していたが現在はしていない」）と答えた人の割合は、全体で2割台、70歳以上になると4割を超え、活動としては「こどもの健全育成／スポーツ／保健・医療・福祉」の分野が多く選ばれ、男性は「スポーツ」の分野の割合が突出しています。

9 生涯学習・生涯スポーツについて

現在行っている活動（学習や趣味など）については、「特に行っていない」と回答した人の割合が、全体で4割台、行っている人の活動では、「スポーツや野外活動に関すること（軽スポーツ、ハイキングなど）／知識・教養や仕事に必要な技能、資格取得に関すること／芸術に関すること（絵画、陶芸、写真など）」が多く選ばれています。

過去1年間の運動（スポーツ、ウォーキング、散歩、体操など）の実施状況は、習慣的に行っている（「ほぼ毎日」＋「週に2～3回」＋「週に1回」）と答えた人の割合は、全体で5割台、50歳以上で5割を超えています。運動を行わなかった人は2割弱となっています。

また、習慣的に行っている人の1回に行う時間は、「60分以上」が3割台、「30分以上」では7割台、性別では男性が、年代別では60歳以上の人の運動する頻度が高くなっています。

日本スリーデーマーチに参加したことがあると答えた人の割合は、全体で6割強、参加回数は大半が10回以下、性別では女性が、居住年数別では10年以上の人が高くなっています。

公共スポーツ施設（学校のグラウンドや体育館を含む）を利用したことがあると答えた人の割合は、全体で4割台、年代が上がるごとに低下する傾向がみられます。

また、利用したことがある人の7割台が、満足（「満足している」＋「まあまあ満足している」）と答えています。一方、利用したことが無いと答えた人の割合は、全体で5割台、「その他（運動・スポーツをしない／施設利用は不要／他）」の回答も多く（3割台）、「施設情報が乏しい／希望する種目ができない／申込方法がわからない」などが不満点として選ばれています。

10 公共施設について

公共施設（市の建物）を維持するために、「あまり利用されていない施設を1つにまとめたり、なくしたりする／近隣の市や町と共用できる施設をつくり、共同で維持管理や運営をする／古くなった施設を直して、建物を長持ちさせる」などで実施賛成（「実施すべき」＋「どちらかといえば実施すべき」）の割合が高い一方、実施反対（「実施すべきでない」＋「どちらかといえば実施すべきでない」）なものは、「施設の開館時間を短くするなどして、サービスを下げて施設にかかるお金を節約する／ほかの行政サービスを下げて節約し、施設にかかるお金にあてる」の割合が高くなっています。

今後、公共施設（市の施設）を減らさなければならなくなった場合に、減らすべき施設として「利用する人が少ない施設／近くに同じような施設（民間施設を含む）があり、十分代替えが可能な施設／建物や設備が古くなっている施設」の割合が高くなっています。

11 市政情報について

知りたいと思う市政情報は、「健康・医療／福祉・介護／市政の運営（施策・計画・財政）／地域の防犯・防災」に関することが多く選ばれ、「市政の運営（施策・計画・財政）／地域の防犯・防災」などは男性が女性より、「こどもの教育（学校教育）／育児・保育」などは女性が男性より割合が高くなっています。

また、市政情報は主に「広報ひがしまつやま／東松山市ホームページ／市からのお知らせや回覧」などを通して入手されています。

市政に関する情報を得られている（得られている」＋「ある程度得られている」）と答えた人の割合は、全体で5割台、年代が上がるごとに上昇する傾向がみられます。

「広報ひがしまつやま」を読んでいる（「よく読んでいる」＋「時々読んでいる」）と答えた人の割合は、全体で7割台、女性が男性より高く、年代が上がるごとに上昇する傾向がみられ、「自治会等からの配布」が主な入手方法となっています。

また、読んでいない（「まったく読んでいない」＋「あまり読んでいない」）と答えた人は、全体で2割台、読まない理由として「読むのが面倒／広報紙が届かない／市政に関心がない」を多く選び、「読むのが面倒／広報紙が届かない」は女性が男性より、「市政に関心がない」は男性が女性より割合が高くなっています。

12 行政運営について

市の職員について思っている（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）印象は、「礼儀正しい／わかりやすく説明してくれる／言葉づかいがよい」などの割合が高く、年代が上がるごと、年を追うごとに上昇する傾向がみられます。

市政の取組において、進んだと思う（「進んだ」＋「ある程度進んだ」）事業は、全体では「河川の整備／健康づくりの推進／防災・減災のまちづくり／保健・医療体制の充実／市民病院の充実」などの割合が高くなっています。

一方、進んだと思わない（「進んでいない」＋「あまり進んでいない」）事業は、「観光の振興／商業の振興／道路の整備と維持管理」などの割合が高くなっています。

また、進んだと思う事業を年代や居住地区ごとの属性でみると、全体で挙がっている事業以外で割合が高い事業は、「安心して楽しい子育て環境づくり／乳幼児期における支援の充実／良好な地域環境の保全／自然に親しむ空間整備の推進／道路の整備と維持管理／上下水道の整備」などがあります。

市政の取組において、重要だと思う（「重要」＋「ある程度重要」）事業は、全体では「防災・減災のまちづくり／保健・医療体制の充実／河川の整備／安心して楽しい子育て環境づくり／交通安全・防犯対策の推進」などの割合が高くなっています。

一方、重要だと思わない（「重要ではない」＋「あまり重要ではない」）事業には、目立って割合の高いものではありません。

また、重要だと思う事業を年代や居住地区ごとの属性でみると、全体で挙がっている事業以外で割合が高い事業は、「乳幼児期における支援の充実／学校教育の充実／教育環境の整備／健康づくりの推進／市民病院の充実／高齢者支援の充実／道路の整備と維持管理／上下水道の整備」などがあります。

13 地域資源について

市内の観光スポットやイベントについて、知っている（「この1年以内に行った」＋「これまでに行ったことがある」＋「行ったことはないが行ってみたい」＋「知っているがあまり興味がない」）ものは、「箭弓稲荷神社／埼玉県こども動物自然公園／東松山ぼたん園」が多く選ばれています。

また、行ったことがある（「この1年以内に行った」＋「これまでに行ったことがある」）ものは、「箭弓稲荷神社／埼玉県こども動物自然公園／いなほてらす（東松山農産物直売所）」が多く選ばれています。

市内の観光スポットやイベントについて、市外の人に自慢・アピールしたいと思っているものは、「埼玉県こども動物自然公園／箭弓稲荷神社／日本スリーデーマーチ」が多く選ばれ、「埼玉県こども動物自然公園」は女性が男性より割合が高くなっています。

